

令和6年度 京都府立綾部高等学校東分校（全日制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （計画段階）

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の向上と希望進路の実現</li> <li>・基本的生活習慣の確立</li> <li>・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成</li> <li>・健康及び体力の維持・向上</li> <li>・地域社会から信頼される学校づくりの推進</li> </ul>		<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇コロナ禍前の官民学事業や地域との連携活動などが戻り、充実した行事や取り組みを実施することができた。</li> <li>◇ロイロノートの活用方法に関する研修会やマニュアルを作成し、校内のBYOD端末を活用した授業推進を行うことができた。</li> <li>◇ICT研修やICT活用の取組を実施し、各教員がICT機器を使用した授業を展開することができた。実験・実習形式の授業での活用も推進できた。</li> <li>◇日々の教育活動の様子をHPを通じて発信する他、動画や各ページの内容についても更新することができた。</li> <li>◇生徒情報の共有を行い、分掌間での迅速な連携を心がけて生徒指導にあたることができた。</li> <li>◇計画的に保健学習を実施し、生徒自身の健康を顧みる機会とすることができた。</li> <li>◇農業クラブ府情報処理競技会で優秀、全国大会農業鑑定競技会では2名の生徒が優秀賞に輝いた。</li> <li>◇即売会を年13回実施し、東祭では例年以上に多くの来場者で賑わいをみせ、地域に貢献するとともに生徒の自己有用感の向上につながった。</li> <li>◇資格取得に多くの生徒が挑戦した。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆3Q4Sをさらに向上させ、より安全・安心な学校づくりを目指す。</li> <li>◆タイムリーなHP更新やメール発信を心掛け、保護者への広報を充実させる。</li> <li>◆制服の着こなしや身だしなみに課題のある生徒がおり、丁寧できめ細やかな指導を継続する。</li> <li>◆個々に応じた丁寧な進路指導を行い、希望する進路実現を目指す。</li> <li>◆多くの生徒に資格試験への挑戦を促し、さらなる合格率の向上を目指す。</li> <li>◆農業クラブ活動やボランティア活動をさらに充実させ、生徒が活躍できる場を数多く提供し、地域に貢献できる人材育成を目指す。</li> </ul>	<p>■3Q+4Sの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3Q &lt;Quality Teacher&gt; 教師としての資質向上</li> <li>&lt;Quality School&gt; 教育内容の充実</li> <li>&lt;Quality Students&gt; 未来を切り拓く人材の育成</li> <li>4S &lt;整理&gt;&lt;整頓&gt;&lt;清潔&gt;&lt;作法&gt;</li> </ul> <p>■A・G・P (Ayabe Global Program) の推進</p> <p>&lt;高い人権意識に基づく教育活動の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自他の生命と人権を尊重する意識や態度の育成</li> <li>●多様性を尊重し多様な人とつながる姿勢の育成</li> <li>●あらゆる場面で一人一人を大切にしている指導の実践</li> <li>●自らの生涯を豊かにする力の育成</li> <li>●自らの将来に目を向け、目標に向かう挑戦や努力を支える学校づくり</li> <li>●興味・関心を刺激し、課題発見や解決、探究的な学びを進める指導の実践</li> <li>●学びに向かう力や主体的に学び考える力の育成</li> </ul> <p>&lt;社会に通じる力の育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●礼儀、健康的な生活習慣、規範意識を身に付ける指導の実践</li> <li>●様々な学びを通じた「自己肯定感」の醸成</li> <li>●仲間とともに高め合い、協働して取り組む姿勢を応援する学校づくりの実践</li> </ul> <p>&lt;教育環境の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安心・安全に学ぶことができる教育環境の構築・整備</li> <li>●様々な課題の解決や克服に向けた家庭や地域、関係機関との積極的連携</li> <li>●1人1台学習用端末活用のための校内協力体制のさらなる強化</li> <li>●本校での学びや取組への理解の深化のための積極的広報</li> <li>●教職員の働き方改革をねらいとした業務の精選や組織づくり</li> </ul>	
分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
組織運営	魅力のある学校づくり	<p>地域との連携活動など、生徒が活躍できる場を多数提供できるように努める。</p> <p>在校生や保護者・地域に、タイムリーな情報発信に努めなど、広報活動を充実させる。</p>		
総務企画	地域への積極的な情報発信	<p>特色ある教育活動や生徒の姿を記録し、ホームページやSNSを通じて、本校の教育活動を地域社会に広く発信する。</p> <p>更新回数 100以上：A 70～99：B 69以下：C</p> <p>本校を第一志望として選択してもらえるように、オープンスクール・中学校での説明会、広報物の発行等を計画的・効果的に行い、本校を希望する中学生や関係者に対して進路指導の一助となる情報提供を積極的に行う。</p>		
教務	ICT機器の活用を中心とした個別最適化の推進	<p>ロイロノートやICT機器利用に関する研修会や教員アンケートを実施し、学校全体で個人の成果や課題を共有する。（3回以上ならA、2回ならB、1回以下ならCとする）。</p> <p>公開授業期間を中心に教員相互の授業参観を呼びかけ、ICT機器活用を含めた授業の個別最適化を推進する。</p>		
生徒指導	自らの行動を振り返りながら新しい目標を作り、主体的に行動に移していける力を育てる	<p>授業を大切にし、机脇にかけたスマートフォン袋の積極的活用に取り組む。</p> <p>多様な視点から自己の言動を振り返らせる言葉がけを行い、社会規範を守ろうとする意欲を高める。</p> <p>挨拶、端正な身だしなみや整理整頓など基本的生活習慣の大切さを意識づける。</p>		

進路指導	生徒の希望進路の実現に向けて 細やかな指導を行う	進路に関する様々な情報を的確につかめるように、連携を密にして情報を共有する。			
		希望進路の100%実現に向けて、求人開拓や進学指導を進める。			
保健	自らの健康を自律的に管理できる力の育成	保健学習を充実させ、自らの健康について考えさせる機会を作る。(各学年2回実施)			
		自分の健康状態を管理し、病気の予防に努める生活を指導する。			
農場	農業クラブ活動の充実を図る	農業クラブの大会及び各種コンテストなどの入賞を目指す。			
		資格取得率の向上を目指す。取得率 65%以上：A      35%以上：B      35%以下：C			
第一学年	学力・進路意識の向上	授業や基礎学力保障の時間を大切にし、基礎学力の定着をはかる。			
		学校行事や資格取得等を通して、自己の進路について考えさせる。			
第二学年	学力の向上	積極的に資格取得に取り組み、進路選択の幅を広げる。			
		進路を考える中で、自主的に学習に取り組み、個々の学力向上を目指す。			
		基礎学力補償の時間を大切にし、基礎学力の定着を目指す。			
第三学年	希望進路の実現	関係分掌、学科等と連携を図りながら個に応じた進路指導を行い希望進路の実現を目指す。 【第1志望合格率 A：90%以上 B：80%以上 C：80%未満】			
		進路決定後も学習意欲を低下させることなく、卒業後を見据えて学力を維持、向上させる。 【学年全体の学年評定の平均 A：3.5以上 B：3.4以上 C：3.4未満】			
国語科	学力の向上と希望進路の実現	小テスト、学習課題を活用し、基礎的な学力の習得を目標とする。			
		グループ活動を通じて、自分の考えや意見を述べる場を設定する。			
		ICTを利用した学習活動を各学期設定する。			
地歴公民科	基礎的な学力の習得と深化	教科書に即したプリント等を活用し、基礎的な学力の習得をはかる。			
		適宜、時事問題を取り上げ、それを通して思考力・判断力を涵養する。			
数学科	学力向上	日々の授業、課題などで反復練習を充実させ、学力の定着をはかる。			
		不認定生徒をゼロにする。			
		期日を守る指導を強化し、課題の提出率を向上させる。			
理科	学力向上	生徒が理科に対して興味を持ち、理解しやすい授業展開を工夫する。			
		プリントや問題演習を多く取り入れることで復習の機会をつくり、内容の定着を図る。			

保健体育科	生涯体育につながる資質や能力の育成	意欲的・主体的に運動に取り組む。			
		各授業の中で、体力向上のための時間を設定する。			
		正しい服装、整列やあいさつなど、授業規律を確立する。			
芸術科	基礎技術を充実させ自ら表現しようとする意欲を育てる	生徒一人ひとりの能力の把握に努め、基礎的な内容から高度な内容まで表現できる幅を広げさせる。			
		表現活動を適切に評価できるよう、指導と評価の分析に注力し、生徒の意欲向上へつなげる。			
		授業時間を有効に活用し、授業規律を大切にす。			
英語科	基礎的な学力の定着	小テストを定期的実施し、基本的な知識の定着を図る。平均点6割以上を目指す。			
		英語の表現を覚え、実際に使ってみようとする態度を養う。			
家庭科	自立に向けた資質・能力の育成	体験的な学習を通して知識及び技能の定着を図る。 (実習、製作、調査、実験、演習等を50%以上実施) 生徒の実態に合った内容を取り扱う。 (時事的な内容、適切な難易度、家庭で実践しやすい実習等)			
農業科	基礎・基本の定着を意識した専門教育の充実	ICT機器を効果的に活用しつつ、農業の基礎・基本の習得を意識した授業展開を行う。 定期的の実習記録簿の提出状況確認を行い、適切な指導を行う。 各考査時の記録簿提出遅れが各学年で A:0~3人 B:4~5人 C:6人以上			
園芸科	専門教育への学習意欲の向上を図る	各専攻の学習や実習を充実させ、生徒の興味・関心を引き出す教科指導を行う。 地域との連携事業を積極的に行い、生徒に自信を持たせる取り組みを行う。 事業参加数5以上:A 3~4:B 2以下:C			
農芸化学科	特色を活かした専門教育の充実	BYODやICT機器を効果的に活用し、知識・技術を高める授業の展開を実践する。 学科の特色を活かした社会人講師事業や校外学習を実施し、専門的な知識・技術の深化を図る。(実施数 5以上:A 4~3:B 2以下:C) 東祭や即売会、学習発表会を活用し、学習成果を学校外へ広く発信する。			
学校関係者評価委員会による評価					
次年度に向けた改善の方向性					